

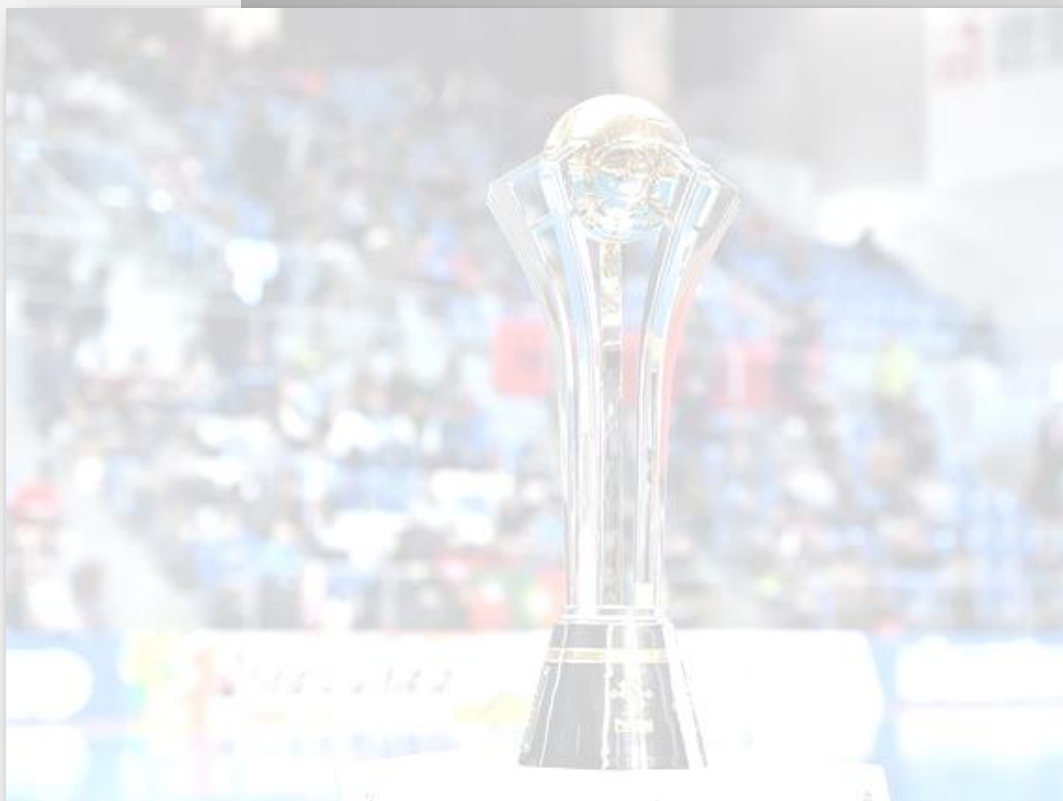


# 日本フットサル連盟 2022年度 実行計画概要


日本フットサル連盟

2022/03/12

Ver 1.0



1. 中長期基本計画に基づく実行計画策定方針 ……P.2
2. 実行計画概要 ……P.10
  - 重点地域
  - 組織課題別PJ



1. 中長期基本計画に基づく  
実行計画策定方針

# 1. 中長期基本計画に基づく実行計画策定方針

## 日本連盟の主たる活動と紐づくミッション（再掲）

- 日本連盟の中長期目標策定に際しては、理念・ビジョンを踏まえ、スポーツ競技統括団体としての普遍的活動（強化・育成・普及等）とミッションを整合させた活動テーマをもち、それぞれに目標を掲げています。

### 日本連盟の主たる活動と紐づくミッション



### 社会貢献とコンプライアンス

## 地域・国際社会への貢献および競技規則や社会的通念、法令やガイドラインの遵守

- 地域社会貢献活動の実施 毎年継続実施
  - 国際貢献活動の実施 W杯開催地域やアジア地域で実施
  - いち早いゼロ・トレランス※の実現 2025年までに実現
- ※ゼロ・トレランス：暴力・暴言、ハラスメント、差別に関しては一切の妥協も許さない姿勢、およびその姿勢に基づく暴力・暴言、ハラスメント、差別の撲滅（JFA サッカーファミリー安全保護宣言を参照）

### 実行計画策定方針

社会貢献活動はアスリート委員会（案）の責務として、コンプライアンスはガバナンス検討委員会のプロジェクトとして、それぞれで実行計画を策定・遂行する。

### 活動のポイント

- ✓ 地域貢献や国際貢献は現地・現場が主体的かつ継続的・断続的にパートナーと共に実施してゆく。
- ✓ コンプライアンスについては、上意下達で遵守を強制するのではなく、遵守の意味や意義を理解し、自ら意識できるレベルを目標に、現地・現場に近い存在が携わってゆく。



### 国内強化・育成

## 競技力の絶え間ない向上と次世代の発掘・育成

- ワールドカップでの好成績を支える環境作り 2024年ベスト8、2028年 ベスト4※
- フットサル指導者ライセンス保持者数の増加 2028年までに6.8千人のJFA登録者※
- フットサル公式審判員拡充への協力・働きかけ 地域・都道府県による審判員の充足※
- アンダーカテゴリーの強化 ジュニア・ユースでの世界戦上位維持
- クラブレベルでの世界戦における好成績 アジアにおける複数クラブの上位維持

※目標値についてJFAへの協力を意図しJFA担当者との共有・確認を実施済み

### 活動のポイント

- ✓ トップリーグでの競技力向上を持続的に支えるために、絶え間なく次世代を発掘・育成してゆく必要がある。その為には育成世代を支える指導者や審判員等のささえる人の増加が必須となる。
- ✓ フットボールファミリーの一員として、目標値や実現方法の検討、実際の活動等についてはJFAとの連携を積極的に進めながら調整・実施してゆく。

### 実行計画策定方針

原則として国内強化や育成はトップリーグを軸に推進することとし、日本フットサルトップリーグで計画を策定・遂行する。

ただし、指導者ライセンス保持者数の増加は、トップリーグの選手や地域にも協力を要請し、審判員拡充は、地域への協力依頼事項として増加方法を地域横断で検討・実施する。



### 競技普及

## やってみたい・見てみたい機会の創出と、やりやすい・みやすい環境の整備

- 人口動態に則した加盟登録者数の維持 2028年までに5万人※1
- エンジョイ含むフットサル人口の回復 2028年までに200万人※2
- フットサルを軸とした新たなコミュニティの創造 2028年までに全国に50コミュニティ
- フットサルの国体種目化への働きかけ 2025年から通年開催※3

※1 JFFに加盟登録している人数  
※2 レジャー白書を基準とした数値  
※3 JFAとの方向性要確認

### 実行計画策定方針

各カテゴリーに重点普及地域を設定し、ガバナンス検討委員会の活動として、フットサル参加人口の増加に資する実行計画を策定・遂行し、他地域の先行事例や参考事例を創出する。

### 活動のポイント

- ✓ コロナ禍により急激に落ち込んだ競技者加盟登録人口をいち早く回復し、回復の勢いをそのままに加盟登録者数を増加させる。
- ✓ カテゴリー別の普及重点地域を定め、普及方法のナレッジを構築し、他地域へと展開する。
- ✓ 地域におけるフットサルやフットサルを通じて提供できる価値を高めるコミュニティを創造し、身近なスポーツとして地域に根付く。



### 連盟組織の連携強化

## トップリーグや9地域・47都道府県連盟との連携強化・互助関係の構築

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| ● フットサルを推奨・支援する自治体数の増加 | 2028年までに全国50自治体 |
| ● 事務局員数の安定・拡充          | 2028年までに10人体制へ  |
| ● 理事会構成員のガバナンスコード準拠    | 2028年までに完全準拠    |
| ● 47FFを含めた全国会の開催       | 2025年から通年2回開催   |
| ● 地域/都道府県連盟の情報連携基盤の構築  | 2025年までに構築完了    |

### 実行計画策定方針

自治体との関係作りは、日本連盟から地域連盟を通じて都道府県連盟に協力を依頼する。また、全国会は地域連携PJが主体となり実施し、他事項についてはガバナンス検討委員会の後続組織の責務として対応を検討・推進する。

### 活動のポイント

- ✓ フットサルが地域において価値を高めてゆくためには、自治体の支援のみならず、地域内でのフットサルファミリーの連携強化が必須となることから、フットサルファミリーの縦横における連携を強める等、ガバナンスや連携基盤を強化してゆく。
- ✓ 今後、フットサルや日本連盟、フットサルファミリーの価値を高めてゆくための人員強化を図り、活動可能な範囲や内容を少しずつ増やして行く。





### 安定的な経営基盤の確立

## スポンサーとの向き合い・対話および共栄・共創関係の構築・安定的な連盟運営基盤の構築

- 支援企業社数およびスポンサー契約の増加 2025年までに年間スポンサー5社以上
- 登録費以外の収益源の開発 2025年までに開発
- スポンサーコミュニケーションの促進 毎年継続開催

### 実行計画策定方針

連盟および日本フットサルトップリーグは共同でスポンサー契約の増加に向けた営業体制を構築し、スポンサーコミュニケーションの場として毎年スポンサー会議を開催する。

登録費以外の収益源については、日本連盟がパートナー各社との協業の中で開発してゆく。

### 活動のポイント

- ✓ 日本連盟が主導する中長期目標を達成するためのあらゆる活動に対し、現状では不足している経営資源を調達し、中長期にわたり安定的な経営基盤を確立すべく、より多くの企業の皆様に日本連盟やフットサルの今後をご理解いただき、支援をいただく機会を醸成する。
- ✓ 加盟登録費以外でも収益源を開発し、パートナー各社様とWin-Winな関係性を保ちながら事業収益を確保する。



# 1. 中長期基本計画に基づく実行計画策定方針

ミッションおよび目標を担当する組織

凡例	日本連盟	日本フットサル連盟・事務局	アスリート	アスリート委員会（案）
	ガバナンス整備	ガバナンス整備委員会・各PJ	トップリーグ	日本フットサルトップリーグ
	地域連盟	各地域連盟	重点地域	重点普及地域



ミッション	目標	担当組織
社会貢献とコンプライアンス	・ 地域社会貢献活動の実施	アスリート
	・ 国際貢献活動の実施	
	・ いち早いゼロ・トレランスの実現	ガバナンス整備
国内強化・育成	・ ワールドカップでの好成績を支える環境作り	
	・ クラブレベルでの世界戦における好成績	トップリーグ
	・ アンダーカテゴリーの強化	
	・ フットサル指導者ライセンス保持者数の増加	トップリーグ ガバナンス整備
	・ フットサル公式審判員拡充への協力・働きかけ	地域連盟 ガバナンス整備
競技普及	・ 人口動態に則した加盟登録者数の維持	
	・ エンjoy含むフットサル人口の回復	地域連盟 重点地域
	・ フットサルを軸とした新たなコミュニティの創造	
	・ フットサルの国体種目化への働きかけ	日本連盟
連盟組織の連携強化	・ 事務局員数の安定・拡充	
	・ 理事会構成員のガバナンスコード準拠	日本連盟 ガバナンス整備
	・ 47FFを含めた全国会の開催	
	・ 地域/都道府県連盟の情報連携基盤の構築	
	・ フットサルを推奨・支援する自治体数の増加	地域連盟 ガバナンス整備
安定的な経営基盤の確立	・ 支援企業社数およびスポンサー契約の増加	日本連盟 トップリーグ
	・ スポンサーコミュニケーションの促進	
	・ 登録費以外の収益源の開発	日本連盟 ガバナンス整備

## 2. 実行計画概要

- 重点地域
- 組織課題別PJ

## 2. 実行計画概要

- 重点地域
- 組織課題別PJ

## 2. 実行計画概要

### 重点地域（1/4）



#### 男子1種（九州連盟）

##### 重点地域・取り組みテーマ

###### シニア層・選手証ありの大会

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

シニア層の年齢（選手証発行）  
選手証ありの大会（既存チーム・合併チーム・以外の選手証発行による）  
参加費等や要項作成案  
施設大会規模で連盟主催となりタイアップによる告知の仕方

##### 2022年度の実行計画

- 九州地域でシニア向けの大会を開催する
  - ✓ 各県予選（4～9月予定）
  - ✓ 本大会（9～12月予定）
- 県リーグ統括者によるリーグ参加に対する意見交換会を開催する

#### 女子（中国・四国連盟）

##### 重点地域・取り組みテーマ

###### 競技登録者を顧客としてとらえたフットサルサービスの開発による登録者数増加

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

U15、U18、エンジョイ、ミックスを含めたエントリーしやすいフェスティバルや短期リーグなどの大会をより多く開催する。さらに、大会への参加者数を伸ばし、連盟登録に繋げていく。  
これを実現するためには、地域・県連盟の収益構造や人員体制面に課題があるため、外部の知見や多くの世代による連盟運営を実現し、つながりを広げていく。

##### 2022年度の実行計画

- 中国連盟・四国連盟の合同でフェスティバルを4回開催する
- 大会開催に向けてスポンサーを獲得する

#### 大学 (関西連盟)

#### 重点地域・取り組みテーマ

大学スポーツとしての“フットサル”  
—プレゼンス向上を目指して—

#### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

##### 【実現に向けたストーリー・シナリオ】

取り組みテーマに対するシナリオとして、以下5点のプロットを設定した。

- ① コロナ後における大学スポーツシーンの変化への対応(競技者減、エンジョイ志向)
- ② 大学スポーツ界におけるプレゼンス向上に向けた取り組みの実施
- ③ 改めて、大学スポーツらしい“リーグ戦文化の構築”を目指す
- ④ 競技力や技術力だけに特化しない、スポーツ活動を通じた社会性の醸成
- ⑤ 「する」人の成長、「ささえる」人の充実、「みる」人が増えるような魅力を発信。

##### 【シナリオに対する課題と対応策】

また、シナリオに対する課題としては以下の項目が想定されている。

- 大学年代における競技人口増と卒業後の競技継続（離脱者減）に関する施策
- 事業拡大&費用増に伴う財源の確保
- トップリーグ（フリーグや地域リーグ）との連携による繋がりの強化
- U18年代との高大連携
- 大学法人からの支援を得るためには、当該競技の認知度やプロリーグ化、オリンピック種目であることなどといった諸条件はクリアしてほしい。

#### 2022年度の実行計画

- ・ 減少者数の確認ならびに登録者増加に向けたプロモーション活動やアプローチを検討する
- ・ 参加しやすい競技会・体験会を開発し、実施実績を作る
- ・ 地域内で主催・主管している大会の1試合あたり平均入場者数の計測を開始する
- ・ フットサルを軸にしたコミュニティを形成する

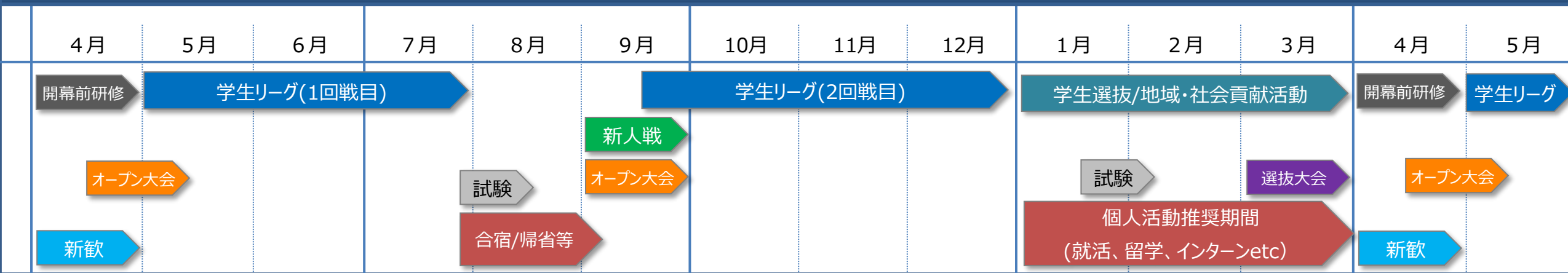
## 2. 実行計画概要

参考資料：大学モデル実行計画



計画概要	年度当初予定からの変更点
<p>▽ <b>22年度実行計画に合わせた具体的年間事業計画の策定</b></p> <p>▽ <b>22年度目標数値に対するアプローチ</b></p> <p>① <b>カテゴリ別登録者増加</b> ⇒ 減少者数の確認、登録者増加に向けたプロモーション活動やアプローチの検討</p> <p>② <b>参加しやすい競技会・体験会の開発・実施実績</b> ⇒ 1day大会の実施や関西学生リーグ所属チームとの交流大会などを実施予定</p> <p>③ <b>地域内で主催・主管している大会の1試合当たり平均入場者数</b> ⇒ 22年度原則的に有観客での実施を目指す。またライブ配信の閲覧数なども成果として考慮 (※2/23全日本フットサル選手権関西大会(大阪経済大学vsびわこ成蹊：最大同時観戦者170人)</p> <p>④ <b>フットサルを軸にしたコミュニティの形成事例数</b> ⇒ 審判、学生スタッフ、運営に関するコミュニティ形成、選抜活動の通年化、オープン大会の実施</p>	<p>・<b>3部制の導入</b> ⇒ コロナによる平時回復が見通せないため見送り</p> <p>・<b>多くの大学に全国大会出場の可能性を</b> ⇒ 22年度1部リーグ所属チーム数を大幅増予定(12⇒16チーム)、地域大学CLへの出場挑戦権を確保(とその盛り上げを実施)</p> <p style="text-align: center;"><b>今後の検討事項</b></p> <p>① <b>実行計画に対する具体的行動の準備</b> → 体制構築、担当者決定、予算配分など</p> <p>② <b>22年度リーグ戦に向けた準備</b> → 本プロジェクトの実行や報告を通じて「大学生のためのリーグ」を模索し続けたい</p>

### 年間活動計画イメージ案 (フットサルカレンダーの見直し Ver1.3)



#### U-18・15・グラスルーツ (関東連盟)

##### 重点地域・取り組みテーマ

**47FFや地域クラブを巻き込んだアンダーカテゴリーの競技会開催を含む育成環境整備**

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

グラスルーツ、U15、U18それぞれのカテゴリーにおいて、サッカー競技との連動性および兼ね合いを考慮して、年間カレンダーを整理した上で、競技会開催に向けての時期を検討する。また、フットサルを専門とするチームの育成強化も並行して検討する。現在実施されている大会（JFAフットサル選手権大会）の時期を目安として、各カテゴリーごとに上記大会を含み年間2回または3回の関東大会実施を目指す。地域・県連盟の収益構造や人員体制面に課題があるが、競技の将来性を考え、普及に向けての投資と捉える共通認識が必要となる。

##### 2022年度の実行計画

- 地域連盟内にU-12、U-15、U-18部門を設立し、定期的な会議を実施する
- U-18の新たなフットサルカレンダーで大会を実施する



## 2. 実行計画概要

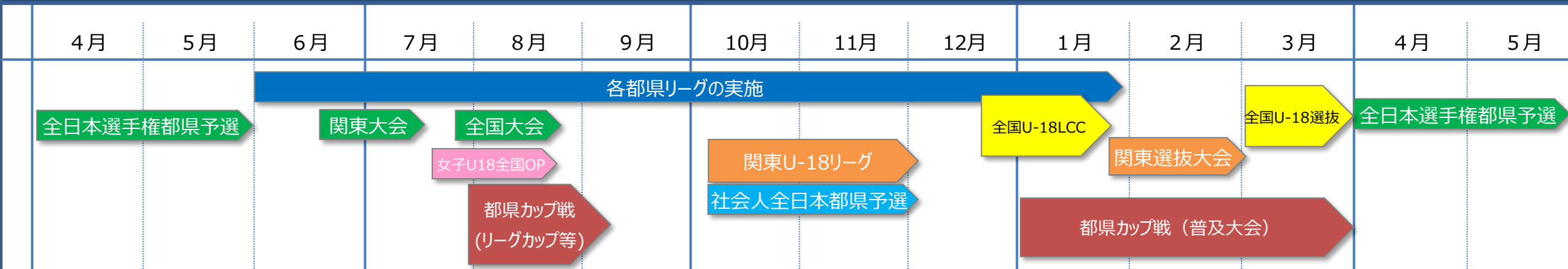
参考資料：関東U-18フットサル選抜大会 / 関東U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ



2022年度計画 原案作成

ミッション・ビジョン	具体的行動指針
<p><b>ビジョン「スポーツ活動ならびに経験を通じた学びと成長を実感できるリーグ」</b></p> <p><b>ミッション</b></p> <p>▽フットサルリーグ戦文化の構築   ▽各都県に全員が試合に出場できるリーグを創成</p> <p>▽参加者全員で作上げるリーグ   ▽新しい青少年年代スポーツの形を提示する</p>	<p>▽地域連盟内にU-12,U-15,U-18部門を設立する。</p> <p>▽定期的な会議の実施</p> <p>▽育成/研修事業を通じた、競技+αの人材育成</p> <p>▽新規加盟チーム促進のためのプロモーション活動や事業の実施</p> <p>▽フットサルの可能性を模索し、競技人口増に貢献</p>
年間事業計画	中長期的戦略・検討事項・課題
<p>① リーグ戦（各都県で実施する）</p> <p>② チャンピオンズカップ戦（前年度リーグ都県リーグの上位チームで実施）</p> <p>③ 選抜大会（都県リーグ選抜チームでの大会を実施を目指す）の実施</p> <p>④ 単独チームでの参加を認め、リーグの普及に向けて交流を深める</p> <p>⑤ 女子リーグの普及に向けて、都県での意見交換の場を生み出す</p>	<p>▽フットサルピラミッド内におけるポジショニング</p> <p>▽アンダーカテゴリーの大会開催数を増やす</p> <p>▽現在の高校のクラブ・部活動数を増やす</p> <p>▽フットサルを行っている総合型地域スポーツクラブの数を増やす</p> <p>▽現在のトップリーグ所属クラブと自治体との連携</p> <p>▽地域と都県で協力してアンダーカテゴリーのフットサル普及に努める</p>

### 年間活動計画イメージ案（フットサルカレンダーの見直し）



## 2. 実行計画概要

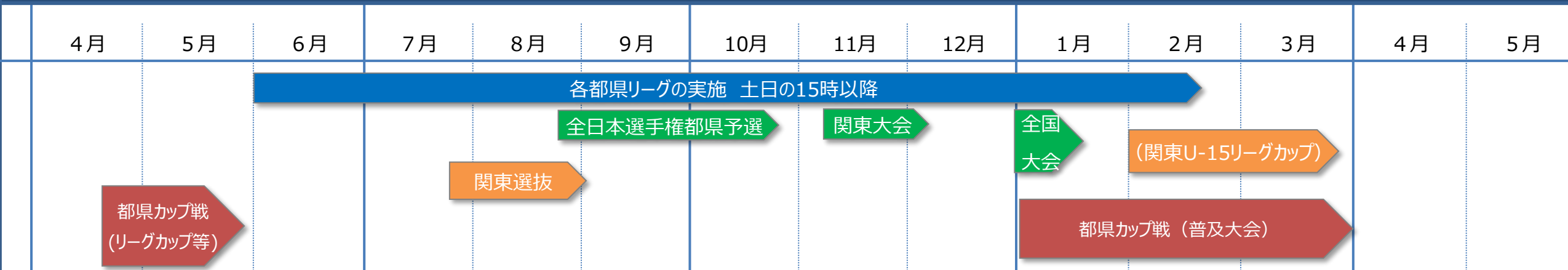
参考資料：関東U-15フットサル選抜大会



2023年度計画 原案作成

ミッション・ビジョン	具体的行動指針
<p><b>ビジョン 「スポーツ活動ならびに経験を通じた学びと成長を実感できる大会」</b></p> <p><b>ミッション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▽フットサル文化の構築</li> <li>▽新しい青少年年代スポーツの形を提示する</li> <li>▽子供たちに目標を持たせ、フットサルを全力で楽しめる環境を創り出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▽地域連盟内にU-12,U-15,U-18部門を設立する。</li> <li>▽定期的な会議の実施</li> <li>▽育成/研修事業を通じた、競技+aの人材育成</li> <li>▽新規加盟チーム促進のためのプロモーション活動や事業の実施</li> <li>▽フットサルの可能性を模索し、競技人口増に貢献</li> </ul>
年間事業計画	中長期的戦略・検討事項・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 選抜大会（都県リーグ選抜チームでの大会を実施を目指す）の実施</li> <li>② 単独チームでの参加を認め、リーグの普及に向けて交流を深める</li> <li>③ 女子リーグの普及に向けて、都県での意見交換の場を生み出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▽フットサルピラミッド内におけるポジショニング</li> <li>▽アンダーカテゴリーの大会開催数を増やす</li> <li>▽現在の中学のクラブ・部活動数を増やす</li> <li>▽フットサルを行っている総合型地域スポーツクラブの数を増やす</li> <li>▽現在のトップリーグ所属クラブと自治体との連携</li> <li>▽地域と都県で協力してアンダーカテゴリーのフットサル普及に努める</li> </ul>

### 年間活動計画イメージ案（フットサルカレンダーの見直し）



## 2. 実行計画概要

参考資料：関東U-12フットサル選抜大会



2024年度計画 原案作成

ミッション・ビジョン	具体的行動指針
<p><b>ビジョン 「スポーツ活動ならびに経験を通じた学びと成長を実感できる大会」</b></p> <p><b>ミッション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▽フットサル文化の構築</li> <li>▽新しい青少年年代スポーツの形を提示する</li> <li>▽子供たちに目標を持たせ、フットサルを全力で楽しめる環境を創り出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▽地域連盟内にU-12,U-15,U-18部門を設立する。</li> <li>▽定期的な会議の実施</li> <li>▽育成/研修事業を通じた、競技+aの人材育成</li> <li>▽新規加盟チーム促進のためのプロモーション活動や事業の実施</li> <li>▽フットサルの可能性を模索し、競技人口増に貢献</li> </ul>
年間事業計画	中長期的戦略・検討事項・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 選抜大会（都県リーグ選抜チームでの大会を実施を目指す）の実施</li> <li>② 単独チームでの参加を認め、リーグの普及に向けて交流を深める</li> <li>③ 女子リーグの普及に向けて、都県での意見交換の場を生み出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▽フットサルピラミッド内におけるポジショニング</li> <li>▽アンダーカテゴリーの大会開催数を増やす</li> <li>▽現在の小学校のクラブ・小学生のクラブチーム数を増やす</li> <li>▽フットサルを行っている総合型地域スポーツクラブの数を増やす</li> <li>▽現在のトップリーグ所属クラブと自治体との連携</li> <li>▽地域と都県で協力してアンダーカテゴリーのフットサル普及に努める</li> </ul>

### 年間活動計画イメージ案（フットサルカレンダーの見直し）



## 2. 実行計画概要

### 重点地域（4/4）



#### シニア（日本フットサル連盟）

##### 重点地域・取り組みテーマ

**男子全国選抜フットサル大会との共催と位置付けたプレ大会の実施**

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

2021年度に東北で開催されるシニアフットサルフェスティバルを皮切りに、毎年行われる男子全国選抜フットサル大会の日程に付随したシニア向けプレ大会を開催し、全国のシニアフットサル競技者の競技会に対するニーズを集積する。また、シニア大会ならではのニーズや運営ノウハウを蓄積し、出場チームの拡大や全国大会の定例開催に向けた準備を行う。

**各地域のシニア施策との情報連携および出場チームの拡大**

各地域・都道府県で行っているシニア層向けの1Dayやトーナメント等の開催状況ならびに大会要項や規約・ルール、参加チームの情報等を集めつつ、全国的なシニアフットサルの機運を計りながら、全国大会の展開タイミングを検討する。また、集積した情報を基に連盟としてのシニア大会における要項・ルール・規約等を整備する。

**シニアならではの参加価値創出**

若年層の1種世代と異なり、シニア世代が競技成果以外に魅力を感じられるよう、大会に付随させる価値や訴求効果を調査・検討し検証する。プレ大会で様々な取り組みに挑戦し、時には他地域の大会での実施も依頼するなどして検証数を増やし、シニアフットサル大会ならではの話題性や価値を創出する。

##### 2022年度の実行計画

- シニア向けのフットサルフェスティバルを開催する（9月下旬予定）
- 各地域連盟のシニア向け大会における要綱や条件等、情報を集積する
- 本年度開催予定のフットサルフェスティバルでシニア世代への魅力訴求施策を検討・実施する

## 2. 実行計画概要

- 重点地域
- 組織課題別PJ

### コンプライアンス教育・研修

#### 重点地域・取り組みテーマ

#### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

##### 教育・研修

2025年度のゼロ・トレランス達成に向けて、2022年度から即時対応が必要な受講者から研修を開始する。  
事前に受講者に対してコンプライアンスへのセンシビリティを高めつつ、受講者に応じたコンプライアンス教育・研修を実施する。  
課題としては人的リソースと予算が挙げられるが、JFAなどの他組織とガバナンスコード検討会の他PJとうまく連携を図り、リソース不足をカバーする。

##### PDCAサイクルの仕組み

日本連盟と日本フットサルトップリーグの各担当理事と両組織の事務局員が1年サイクルのPDCAを回し、効果的に研修する。

##### 違反件数の取り組み

別途作成予定の規律・裁定委員会（案）から情報を共有してもらい、なぜ違反件数が発生するか検討した上で再発防止策を検討することで違反件数を逡減させる。

#### 2022年度の実行計画

- 日本連盟役職員に対するコンプライアンス研修を実施する
  - ✓ 職員
  - ✓ 理事/評議員
- 関連団体と連携したコンプライアンス研修を実施する
  - ✓ 日本フットサルトップリーグ
  - ✓ 地域フットサル連盟
  - ✓ 都道府県フットサル連盟
- 理解度が不足している受講者へのフォローや改善施策を検討する
- 規律・裁定委員会（案）と情報を共有し、違反事例を分析する

## 2. 実行計画概要

参考資料：コンプライアンス教育・研修 2022年度マスタースケジュール案



- 日本連盟と日本フットサルトップリーグのコンプライアンス教育担当理事各1名および事務局員各1名の計4名で情報を連携し、コンプライアンス教育を推進するマスタースケジュール案を策定しました。

**凡例**

- JFFにおけるタスク
- 日本フットサルトップリーグにおけるタスク
- 両法人におけるタスク
- 規律・裁定委員会（案）立ち上げ
- 理事会
- ガバナンス整備委員会（案）
- ※想定上の仮日程



JFF理事・職員、JFF評議員、新法人理事・職員、新法人社員の計4回実施

#### 情報開示・開示推進

##### 重点地域・取り組みテーマ

##### コンプライアンス遵守やガバナンス整備のための守りの情報開示

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

日本連盟が透明性を確保していると認知されるよう積極的に情報を発信する。これまでは他の競技団体がHP等に掲載している情報においても、日本連盟のHPには掲載出来ていないものが多くあった。そのため、掲載が必要な情報の見直しとHPの更新を早急に進め、まずは他の競技団体と同等程度の情報公開を行い、その後、より透明性を確保できると認知されやすいような情報の発信を検討する。  
HP更改に関して、別途連盟と日本フットサルトップリーグのHPを整理・更改するPJを立ち上げる。

##### 事業価値向上に向けた新たな共創関係などの攻めの情報開示

事業価値向上に向けて、情報開示・開示推進PJでは情報開示や掲載を通じて他のPJが推進しているミッション・ゴールの達成を支える事が重要である。  
そのために、PR、マーケティング、広報という3つの機能を強化させる必要がある。現在は本PJの取り組みを引継ぎ実行する連盟の事務局広報担当者が未定の為、各取り組みの詳細は広報担当者の任用後に改めて検討を行う。  
各活動の具体的な施策として、PR活動では職員の意識が課題となっているため、PR活動でどのような効果が生まれ、価値を還元できているかを認識してもらい、それぞれのステークホルダーごとに優先度を立ててPR活動を実施する。マーケティング活動は担当者任用後に具体策を検討するため、情報開示・開示推進PJでは具体的な施策の検討は行わない。(ただし組織としては担当理事を就ける等してマーケティング活動を推進する) 広報に関してはプロセスを整理し、他のPJと円滑に連携できる仕組みづくりを構築し、情報の発信元に併せてどのような業務が発生するか検討する。

##### 2022年度の実行計画

- 組織情報の透明性を高めるために必要な情報を連盟のHP等に掲載する
- 連盟のステークホルダーと共創関係を構築する為に、PR活動を実施する
  - ✓ スポンサーとの関係性構築
  - ✓ メディアとの関係性構築
- ニュースリリースが必要な情報を整理し、継続的に情報を発信する



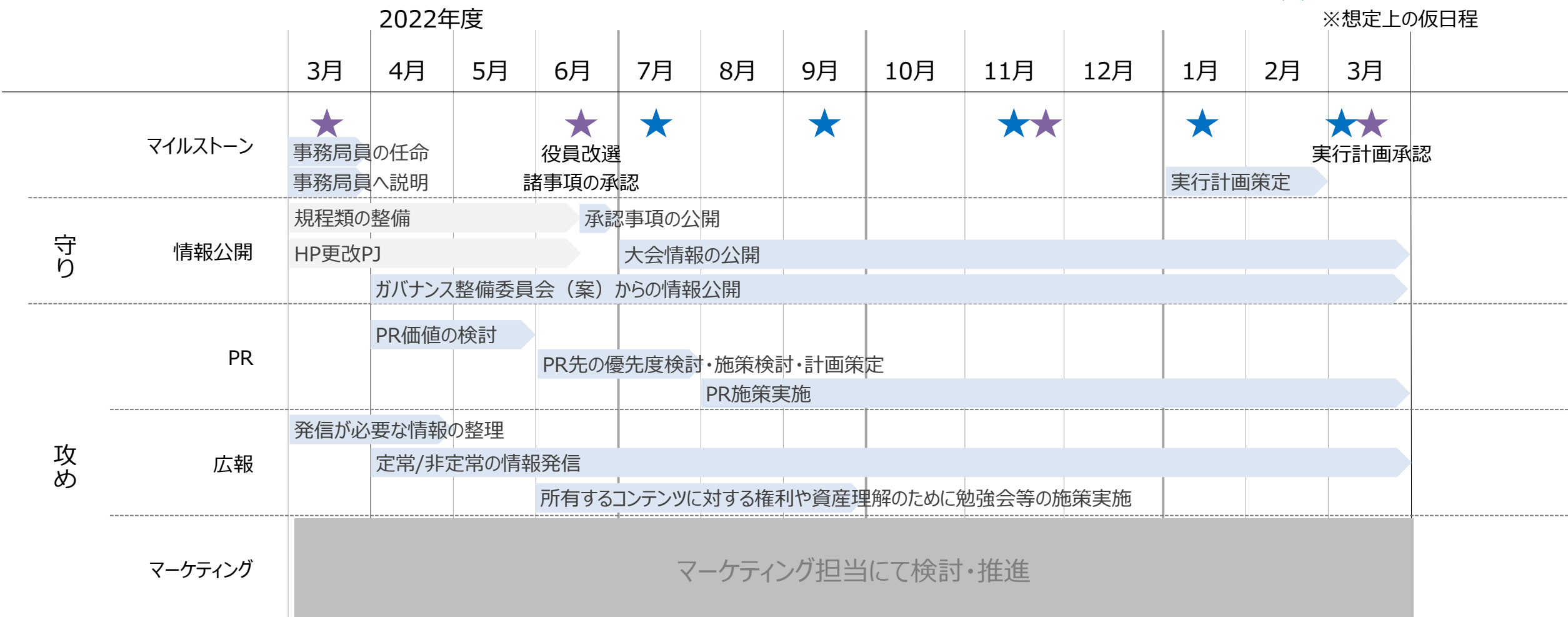
## 2. 実行計画概要

参考資料： 情報開示・開示推進 2022年度マスタースケジュール案



- 日本連盟の事務局に1名の広報担当者（情報公開、広報、PR等を含む）が配置された場合のマスタースケジュール案を策定しました。

★ 理事会  
★ ガバナンス整備委員会（案）  
 ※想定上の仮日程



#### ダイバーシティ (1/2)

##### 重点地域・取り組みテーマ

###### ダイバーシティのプロモーション活動

ダイバーシティを全面的にアピールした大会やイベントなどのリアルな施策とメディアを有効活用したバーチャルな施策を実施し、それらの活動を安定的に行う為にダイバーシティ観点のスポンサーを獲得する。

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

少ないリソースの中で実現可能なリアル施策を実施し、確実に実績を積み上げながら日本連盟のダイバーシティ施策の認知度を向上させ、スポンサー獲得につなげることで徐々にリアル・バーチャルの施策を拡大し、好循環を作りながら連盟のダイバーシティ推進が加速していることを対外的にアピールする。

具体的にはリアルな活動としては、2022年度から実現性やニーズ調査を実施し、リソースに見合った効果的な活動は何か判断した上で、2023年度以降に毎年1回以上施策を実施活動実績を積み上げていく。

バーチャルな活動としては、低予算で実現する為にオウンドメディアを要項的に活用し、ダイバーシティに対する取り組みや今後の施策計画、或いは具体的な女性活躍の現場を伝えるコラムなどを発信することで、スポーツ界において連盟並びにフットサル界がダイバーシティに取り組んでいることを発信する。

将来的にはHPの多言語化などウェブアクセシビリティを高める施策も実施する。リアルとバーチャルの施策を実現する為に、課題となるのが人的、金銭的なリソース不足である。そのために対応策としてダイバーシティPJとしてもスポンサー獲得を目指し、2023年には具体的なアプローチを開始する。当初はスポンサー営業に対するナレッジ不足も想定される為、財務PJで検討している営業の外注などに同行させてもらいながら知識を獲得できないか調整する。

##### 2022年度の実行計画

- ダイバーシティをテーマに掲げたイベントの実施企画を立案する
- 年4回、ダイバーシティをテーマにした外部発信を行う
- スポンサー獲得に向けた市場調査とスポンサーセールスシートへの反映
  - ✓ ダイバーシティに関する企業ニーズ調査
  - ✓ スポンサーセールスへの協力や情報提供

#### ダイバーシティ (2/2)

##### 重点地域・取り組みテーマ

###### ガバナンス整備の一環としてのダイバーシティマネジメント

現状で変革が必要だと認識している「多様な人材の獲得」「理解度の醸成」「新たな風土・文化の形成」3つのポイントを段階的に進めていく。

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

必須対応事項であるデモグラフィック型・タスク型の多様な人材を獲得しつつ、教育を通じて理解度の醸成を図り、新たな風土・文化を形成することでオピニオン型のダイバーシティマネジメントを実現し、ガバナンス整備の目標を実現する。

多様な人材の獲得として、まず必須対応である女性理事と外部理事を2028年にそれぞれ40%、25%実現する為に、段階的な目標として2024年の改選期には女性理事30%、外部理事10%の割合を達成する。その実現のためにはダイバーシティを考慮した役員選考の規程の作成・更新を2023年中に実施する。

職員に対しても多様な人材の獲得が理想的だが、連盟における実現性や必要性、または課題の検討を2022年中に実施し、それ以降に実際にどのような施策を実施するのか再度計画を立案する。

ダイバーシティの理解度女性の為にコンプライアンス教育・研修PJまたはその担当者と協力し、役職員、新法人、傘下団体に教育を実施、その重要性を理解している関係者の割合向上を目指す。

新たな風土・文化の形成は定量的に測ることが難しいが、アンケート調査を通して、様々な人の意見が反映される風通しの良い組織になっているか把握する。

##### 2022年度の実行計画

- あるべき組織像や組織体制をガバナンス整備委員会（案）で検討し、理事会へ提言する
- 組織内部に向けたダイバーシティ研修を実施する

## 2. 実行計画概要

参考資料：ダイバーシティ 2022年度マスタースケジュール案



- ダイバーシティ担当理事が1人で目標に向かってタスクを進める場合、年間で約184時間の作業が必要となると想定しています。
- 担当理事1人での推進が困難な場合、サブテーマに優先順位を立て、計画の後ろ倒しやリソースの追加、外部の協力が必要となります。



### アスリート委員会検討WG・社会貢献 (1/2)

#### 重点地域・取り組みテーマ

**アスリートからの期待値、取り巻く人たちからの期待値を集めて、アスリート委員会のあるべき姿を策定し、アスリート委員会の委員会としての機能性を確立する**

#### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

アスリート委員会としてのあるべき姿を策定するために、関係者の意見調査、対話等を通じ、界限でのアコモデーション\*の獲得をはかる。

アスリート委員会検討ワーキンググループ（以下 WG）で検討した組織の目指したい方向性やビジョンをもとに、委員会設立後に改めて方向性について過不足等を吟味していく。

関係者の立場や状況によって検討されるありたい姿が異なるため、その調整が課題にはなるものの、WGで議論しているように、委員会の実施可能な事項や委員会に向けられる期待から、どの様な取り組みテーマをありたい姿として設定するかを考えることに留意する必要がある。

共通した価値認識の醸成を対話や検討を通じてはぐくみながら、アスリート委員会が機能的に運営できる環境を整備、確立していく。

※アコモデーション：問題状況に関わる人々の間で、各自が問題状況について感じていること（Purposeful Activity：「思いの活動」）を議論し、その過程での気づきから異なる世界観を同居させられる「思いの活動」を共有して合意形成する時の合意の仕方をいう。

#### 2022年度の実行計画

- ・ アスリートや外部組織に対し、アスリート委員会の説明会を実施する
- ・ 各地域組織やリーグ関係者との共創事例の創出に向けた会議を実施する
- ・ アスリート委員会に対するニーズ調査を実施する

#### アスリート委員会検討WG・社会貢献 (2/2)

##### 重点地域・取り組みテーマ

###### アスリート委員会が掲げる Mission3: 「アスリートから取り巻く人々へ」

委員会の目的およびロードマップのビジョンの達成に向けて、アスリートから寄せられる想いを、取り巻く人々へ発信・提案していく

###### アスリート委員会が掲げる Mission2: 「アスリートからアスリートへ」

委員会の目的およびロードマップのビジョンの達成に向けて、アスリートから寄せられる想いを、アスリートへ発信・提案していく

##### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

アスリートの意見を組織に反映するために、アスリートから広く意見を集め、集まった意見の内容を審議し、必要に応じて取り巻く人々に発信・提案する。またその過程を公開していく。

一方、印象論での意見や権利偏重の主張等への対応については、アスリート委員会が労使的意味合いの組織ではないことを念頭に、委員会でバランスを考慮した対応方針を示していく必要がある。

こうした事項に留意しながらも、活動初年度にアスリート委員会としての実績を作り、活動を継続していくことに取り組んでゆく。

取り巻く人々に対して発信、提案するように、アスリートに対しても同様に、アスリートの意見を提案・発信することでアスリート全体が発展・成長するよう取り組んでいく。

その実現のためにも、まずは、アスリートの意見が議論の俎上に挙がっていることから発信していくなど透明性を担保し、委員会として動いていることの可視化やわかりやすいメリットをアスリートに示し、より多くのアスリートを巻き込んでいく。

本取り組みテーマは、他テーマの活動を軌道に乗せる間、しかるべきタイミングで実績を残せるよう、着実に準備を進める。

##### 2022年度の実行計画

- 普及・社会貢献の文脈で、地域組織との共創事例の創出に向けた検討を行う
- アスリートによる社会貢献活動が実施できるよう、その体制を整備する
- 有志のアスリートによるアスリートが抱える課題の共有や課題への対策を検討する会議を実施する
- リーグ強化/活性化の文脈で、リーグ組織との共創事例の創出に向けた検討を行う

## 2. 実行計画概要

参考資料：ワーキンググループによるアスリート委員会の2022年度活動想定



- 2022年度は、アスリート委員会を設立し、地域組織やリーグ（アスリート）との共創検討、社会貢献活動の実施、アスリート委員会の認知獲得等の活動を実施します。

	実行計画の考え方・方針	実施事項（案）
<b>アスリート委員会の認知獲得・組織基盤整理</b>		
アスリート委員会の認知獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連盟が組織するアスリート委員会の目指したい姿や委員会そのものの存在の認知や理解を深め、アスリート委員会に対する期待値を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アスリートや外部組織に対する説明会の実施</li> <li>➢ アスリート委員会に対するニーズ調査の実施</li> </ul>
OBネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ OBのネットワークをどのように形成し、生かしていくかを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 活用方法検討会議の実施</li> </ul>
<b>地域組織との連携・協働</b>		
アスリートによる社会貢献活動の実施 / 連盟による社会貢献体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定常的な社会貢献活動の実施や、アスリートによる社会貢献、地域課題の解決に向けて、実績を積む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アスリート（委員会）主導の社会貢献活動の実施 ex. 児童養護施設の児童へのフットサル教室実施等</li> <li>➢ 活動事例をとりまとめ、アスリート委員会の活動、認知の拡大</li> </ul>
地域組織との共創による普及活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地域組織にアスリート委員会の存在を知ってもらい、実際にアスリートの力で地域が抱えている普及課題の解決に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域組織とのディスカッション</li> <li>➢ 共創施策の企画・実施</li> </ul>
リーグ組織との協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新法人側とアスリート委員会の関係構築を目指し、リーグ強化/活性化の文脈で、今後の共創施策実施の足掛かりを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新法人とのリーグ強化等に関するディスカッション</li> </ul>
<b>トップリーグやトップリーグ所属アスリートへの貢献活動</b>		
“プロフェッショナルリティ”の議論・検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アスリート委員会が設立に向けて大事にしてきた、あるべきアスリート/アスリート委員会像をもとに、アスリート間で議論を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 参加希望者対象とした年3回のアスリート会議の実施（アスリート委員会の説明、あるべきアスリート像、リーグとの共創 等）</li> </ul>

### 地域連携 (1/2)

#### 重点地域・取り組みテーマ

##### フットサルファミリー全体のチェンジマネジメント推進

新たな連盟の理念・ビジョンおよび中長期目標を各地域・都道府県と共有し、全国の理解と賛同を踏まえフットサルファミリー全体で一つの方向を向いて行けるようにする。また、各地域の地域特性を活かしながらも、原則として「フットサルを良くしてゆく想い」と「変革すべきことは積極的に変えてゆく」文化、フットサルファミリー間の積極的な互助関係を築く文化を根付かせる。

##### 全地域連盟の経営力強化支援ならびに法人化推進

地域連盟の法人化や、法人化を通じたガバナンス整備および活動資金調達を促し、事業の安定化や継続性を保つために組織の成熟度向上に資する直接・間接的な指導や支援を行う。こうした指導や支援を通じ、地域連盟の事業運営に必要となるスキルを組織的に獲得するのみならず、スタッフの充実や安定化等を図ってゆく。

#### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

日本連盟がオーナーシップを発揮し、毎年各地域との対面における対話を繰り返す中で、理念・ビジョン・ミッションの浸透のみならず、地域に対しては中長期基本計画の遂行に際する具体的な助言や支援を行い、5つの壁（認知、理解、納得、行動、継続）を毎年越えてゆきつつ、都道府県の状況も注視・把握する。また、1年に1回、必ず全国会議を開催し、中長期基本計画の全体での進行状況やフットサルファミリー全体で共有すべき事項を伝える場として活用する。上記の実施によって、フットサルファミリーの一体化を図ってゆく。

まず、地域連盟へのヒアリングを行い、法人化に向けた考え方や難易度、課題等を整理する。次に、ヒアリングに従い、各連盟共通の、法人化までの標準的なステップを検討して整理する。その標準的なステップを地域に連携し、各地域の状況や特徴を踏まえた、法人化に向けた各地域連盟のロードマップ策定を支援する。その後、各地域連盟の法人化に向けたロードマップに従い、法人化への活動を支援し、諸々発生する課題の解決についても支援する。

#### 2022年度の実行計画

- 連盟組織全体が理解の壁を越えられるようなコミュニケーションを図る
  - ✓ 9地域への訪問会議実施と理念・ビジョンの理解醸成
  - ✓ 全国会議の開催
- 法人化の標準ステップを検討し資料化を行う



### 地域連携 (2/2)

#### 重点地域・取り組みテーマ

##### 事業価値向上に向けた日本連盟の組織整備

チェンジマネジメント推進や組織成熟、知見や事例の共有等を推進し、各地域が抱える課題や問題を地域全体で知恵を出し合いながら解決できるよう、またフットサルファミリー全体が価値を高められるよう、組織構造を見直すことでガバナンスを強化する。

##### フットサルファミリーの情報連携基盤構築・活用促進

チェンジマネジメントの推進に際し、地域の課題の見える化、コミュニケーション量の改善、情報公開や通達に伴う開示基盤、組織持続に向けたナレッジや情報資産・資源の保全・管理等を簡便に行うために情報連携基盤を導入し、活用を促進する。

#### 実現に向けたストーリー・シナリオ および課題とその対応策

事業価値向上に向け、日本連盟の組織整備の方向性・計画を検討し、これについて理事会・評議委員会からの承認を得る。

まずは22年度、23年度は現理事会体制と地域検討委員会を並行で運用する方式を採る。

地域検討委員会の中で、各地域の状況や課題把握および対策検討を行い、委員会の存在価値や効果を検証し、効果が確認された後に新理事会体制を構築して運用を開始する。

地域検討委員会は引き続き地域の状況や課題把握および対策検討を担う。

フットサルファミリーの情報連携基盤を支えるデジタルテクノロジーの活用方法ならびに導入サービスを検討する。次に、選定されたサービスの導入設計および環境構築を行い、利用研修会を開催後、いくつかの地域にプレ導入を行う。プレ導入の結果を踏まえ、マニュアルや導入ルールを整備し、まずは基本機能の活用から開始して運用を定着化させる。

情報連携基盤が有する諸機能についても徐々に活用・応用を進め、フットサルファミリー間におけるコミュニケーション促進・デジタルデータでの情報連携文化を推進する。

#### 2022年度の実行計画

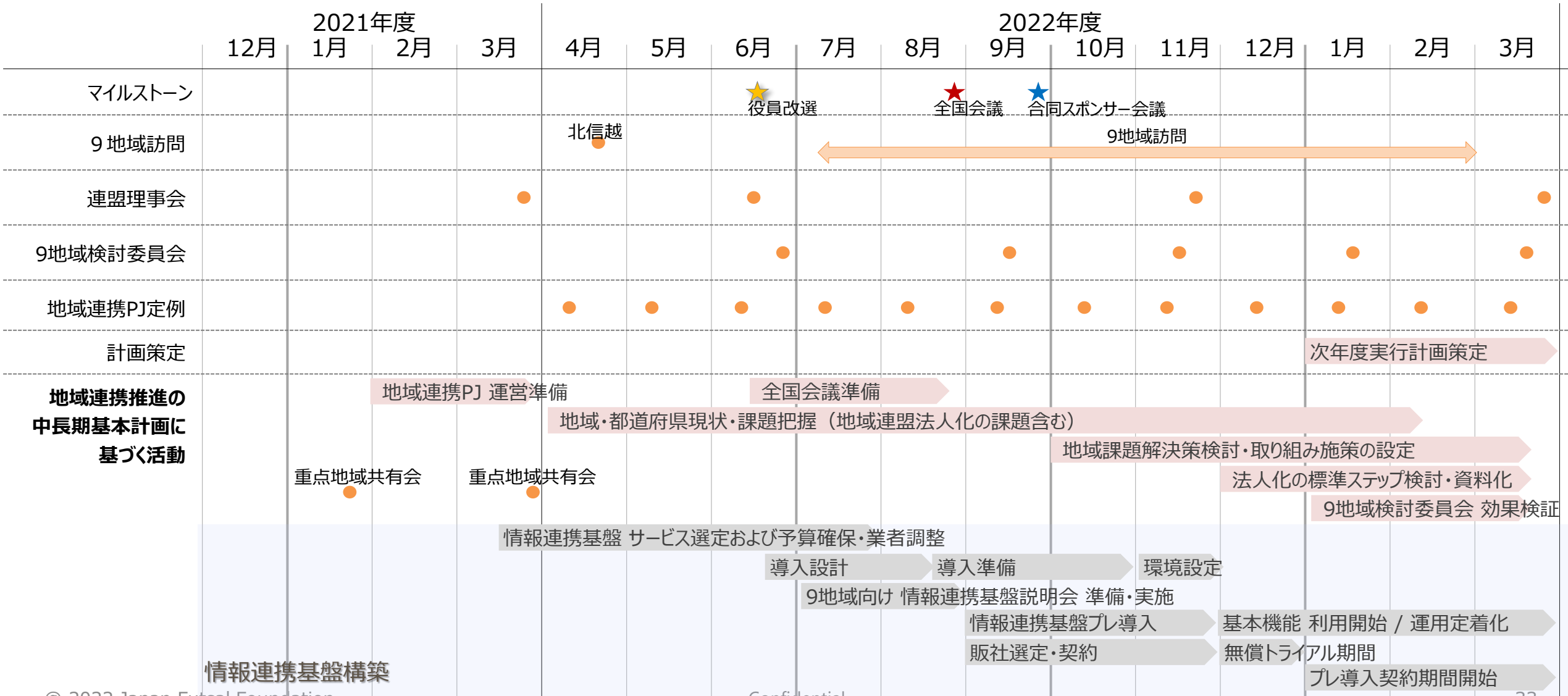
- 9地域検討委員会（案）を立上げ、運用を定着させる
  - ✓ 9地域検討委員会の設立（案）
  - ✓ 地域が有する課題の解決策検討
  - ✓ 地域間での諸所方針やルールの検討・理事会への提案
- 情報連携基盤のプレ運用を対象地域を限定して開始する
  - ✓ 情報連携基盤のプレ導入および運用開始
  - ✓ プレ導入に伴う導入・利用上の課題の抽出
  - ✓ 全体導入の計画策定

## 2. 実行計画概要

参考資料：地域連携 2022年度実行計画マスタースケジュール案



- 2022年度は、地域訪問等による地域・都道府県への説明や対話のみならず、2025年度に向けた様々な活動の準備期間になります。





**Futsal**  
● JAPAN FUTSAL FEDERATION ●